

国際学院新聞

第65号

(編集発行) 学校法人 国際学院
〒330-8548 さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
https://www.kgef.ac.jp/

主なニュース

- 論説、学生政策提案フォーラム、公開講座 …… 2面
- 幼児絵画展、味彩コンテスト、実習報告 …… 3面
- 国内研修、クラブ活動報告・射撃部 …… 4面
- JICA訪問、芸術観賞会、通信制国内研修 …… 5面
- 体育大会・体育祭、五峯祭、テニスマナー …… 6面
- 食品ロス削減、学友会活動、生徒会活動 …… 7面
- 卒業生近況報告、ベストブック …… 8面

UNGCの10原則及びSDG17目標の達成に向けて

本学院が、UNGCに加盟して4年が経過した。UNGCの10原則及びSDG17目標の達成に貢献し、学校法人として地域社会の課題解決のみならずグローバル社会に貢献しうる人材の養成に向け、その取組は着実に進んでいる。



本学院は、UNGC10原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成として、教育課程・教育プログラムにおける取組を進めている。この中心的取組として進めてきているのが、短期大学における卒業研究ゼミナール・卒業研究プレゼミナール(以下「卒業ゼミ」)であり、中学校高等学校における卒業研究発表会(以下「卒業発表会」)である。短期大学の卒業ゼミは、SDGsの取組を専門研究と関連づけ、2年間を通して学生がSDGsを理解し、課題解決に向けて自ら積極的に取り組み、その学修成果を発表するもの。また、中学校高等学校の卒業発表会は、SDGsの目標いずれかに関連づけ



募金活動を行う生徒

たテーマについて、生徒が主体的に学んで発表する探究学習のハイライトとして卒業発表会を行っている。こうした取組を加速させるため、短期大学では必要な教材・費用を補助する運営費申請制度を設けるなど、教育研究効果の向上を促進している。それぞれの取組の集大成である発表会では、顕彰制度を設け意欲喚起を促すとともに、発表内容をポスター掲示し、後輩の学びに寄与している。また、海外研修や研修旅行も、国際社会の中で信頼された「人」となるための実践的な学びとして重要な

機会となっている。コロナ禍の中、研修先は国内とせざるを得ない状況ではあるが、この授業の趣旨を踏まえ、取組を進めている。

進む自主的・主体的取組 UNGCが推進するSDGsへの取組の教育課程及び課外活動の取組において、学生生徒が「一丸となった自主的・主体的取組も進んでいる。

短期大学では、さいたま市が実施する「学生政策提案フォーラム」に、2つの学生グループが参加した。SDGsの根本理念である「誰一人取り残さない」持続可能な地域社会の実現のために、行政に学生が、

SDGs推進に向けて 短期大学では、さいたま市と連携したSDGs推進事業が進められている。これは、さいたま市食品ロス削減プロジェクト「チームFAN」に参加し、食品ロス削減をテーマにした卒業研究や、五峯祭でのフードドライブへの協力、廃棄物の極力少ない調理実習等、食品ロス削減に取り組むもの。こうした大学全体の食品ロス削減に向けた取組を、ホームページ等で地域に発信し、地域社会全体のSDGsに向けた取組を促進している。また、学生の防災・減災への意識向上のため、専門家を講師に招聘し、オンラインによる「はじめの災害食講座」を開催した。

また、現下のウクライナ情勢に心痛めた学生生徒たちが、「何か、今、私たちにできることはないだろうか」との問い掛けから、それぞれ自主的にウクライナ難民支援のための募金活動を行い、ウクライナ難民支援緊急募金に寄付すること

権を守るための取組、研究費の不正防止など公的研究資金等不正防止に向けた取組、施設のLED化など、SDGsを推進している。特に、中学校高等学校では、2021年から、女子生徒の制服にストラップを、新たに導入した。これは、機能性や防寒対策の確保、さらに、痴漢被害を防止する等の効果を目的とするほか、ジェンダーフリーの考えに沿った取組でもあり、きめ細かなSDGs推進の取組を進めている。

活動成果を定量的に測定 UNGCの取組では、2年に一度、COE(定期報告書)を提出することが義務付けられているが、特に2年間の成果を示す定量的数値は、本学院の活動の成果を示すものとして重要である。短期大学の卒業研究の取組を通じ、学生のSDGsの認知度は、この2年間で16.3%から98%と



さいたま市長と参加学生



子どもたちと食品ロスすごろく

81.7%も上昇した。また、ESD教育を進めてきている中学校高等学校でも、SDGsの理解を深めた生徒の割合は32.1%上昇、さらに、17の目標達成のために行動できた生徒の割合は16.1%上昇している。COEの作成を機に、改めて本学院の2年間の取組を総括することができた。今後さらなる実効性あるSDGsの取組を進めていく。本年11月、本学院は2度目のCOEを国連に提出した。

第6回食品ロス全国大会inさいたま 10月30日に市民会館おみや(Rai Boc Hall)において開催された「第6回食品ロス削減全国大会inさいたま」の展示会場に、本学は「さいたま市チームEat All」の一員として参加した。

本大会は、食品ロス削減に向けた全国的な機運の醸成を図るため、毎年、食品ロス削減の日で開催されるもので、首都圏初となる開催であった(さいたま市主催、消費者庁・農林水産省・環境省共催)。

展示会場では、健康栄養学科食物栄養専攻の「調理師 健康栄養学科のブースでは、4年前の「エコふりかけ」から始まった取組について、パネルや動画を使用し、来場された多くの方々に説明を行った。出汁がらや通常廃棄される食材を活用したレシピは来場者の関心を惹き、今年度取り組んでいるネギの青い部分

「おもてなし」に象徴された東京五輪から、わずか、1年余、戦火が平和を侵食、国際社会は二分化へと退行。オリンピックは、「平和の祭典」と言われるだけに、この乖離は、不幸な現実。▼自国の論理で、他の主権国家を「たたく」国がある。結果、罪なき尊い命が犠牲。侵略側にも「自国」と「人命」の狭間で苦悶している人がいると、少なくとも思いたい。▼ふと、本国とは異なる決断をした先人に、思いが走る。皆さんは、ご存じだろうか。第二次世界大戦、ユダヤ人迫害下のヨーロッパ。自らの命を賭して、人としての品性を堅持した日本人を。▼「東洋のシンドラガー」とも称えられた外交官こそ、杉原千畝(ちうね)、その人リトアニアで日本へのヴィザを発給、6千名の命を救います(後年「命のヴィザ」と言われます)。▼「たたくよりたたく合おう」。名文だと思いませんか。A.C.ジャパン広告です。たった1文字違い、が、意は、似て非なるもの。文字の対比も見事です。なにより、全文で明快、真っ直ぐなメッセージ、ここに響きます。知らず自らを省みる気持ちも生じます。▼厳格な渡航条件を満たしているはずもない難民。杉原の決断は、……「人道の一語でした。日本人初で唯一の「諸国民の中の正義の人」としての顕彰も納得。▼さて、「たたくよりたたく合おう」には、この一文も。「ひとり一人にリスペクト」。まさに「慈愛」の一語。

敦 照

「おもてなし」に象徴された東京五輪から、わずか、1年余、戦火が平和を侵食、国際社会は二分化へと退行。オリンピックは、「平和の祭典」と言われるだけに、この乖離は、不幸な現実。▼自国の論理で、他の主権国家を「たたく」国がある。結果、罪なき尊い命が犠牲。侵略側にも「自国」と「人命」の狭間で苦悶している人がいると、少なくとも思いたい。▼ふと、本国とは異なる決断をした先人に、思いが走る。皆さんは、ご存じだろうか。第二次世界大戦、ユダヤ人迫害下のヨーロッパ。自らの命を賭して、人としての品性を堅持した日本人を。▼「東洋のシンドラガー」とも称えられた外交官こそ、杉原千畝(ちうね)、その人リトアニアで日本へのヴィザを発給、6千名の命を救います(後年「命のヴィザ」と言われます)。▼「たたくよりたたく合おう」。名文だと思いませんか。A.C.ジャパン広告です。たった1文字違い、が、意は、似て非なるもの。文字の対比も見事です。なにより、全文で明快、真っ直ぐなメッセージ、ここに響きます。知らず自らを省みる気持ちも生じます。▼厳格な渡航条件を満たしているはずもない難民。杉原の決断は、……「人道の一語でした。日本人初で唯一の「諸国民の中の正義の人」としての顕彰も納得。▼さて、「たたくよりたたく合おう」には、この一文も。「ひとり一人にリスペクト」。まさに「慈愛」の一語。

創立者大野誠先生

お別れの会開かれる



本学院創立者の大野誠先生が7月6日(逝去)されました(享年90歳)。

先生は、永らく建学の精神に基づき、「人づくり教育」、地域の職業教育の充実に努められ、多くの有為な人材を社会に輩出して参りました。

先生のご功績等につきましては、追悼特別号でお知らせいたします。

特別号には、本学の卒業生を始めとする、たくさんの方々から悼む声が寄せられました。

「大野誠先生お別れの会」は、12月10日にパレスホテル大宮で開かれます。

大宮キャンパス図書館リニューアル

1階にカフェ風カウンター、2階にPCコーナー



飲食可能な雑誌コーナー

短期大学附属図書館は、夏期休業期間に休館し改装を行った。テーマは、ゆとりある空間でゆつくりと過ごせる居心地の良い図書館。

1階は、人の出入りのにぎやかなるため、それぞれの活動に集中できるよう緩やかにゾーニングした。

雑誌コーナーは、利用増加を期待し入口付近に移動。カフェ風のカウンターを設置し、学生から要望の多い「飲食可能スペース」を作った。普段からよく利用される絵本コーナーは奥に配置し、閲覧席との間を書架で分けた。雑誌架の移動により窓があらわれ、明るく開放的な雰囲気になった。

学生のリクエストから、2階にもPCコーナーを設

「第11回学生政策提案フォーラム in さいたま」

健康と福祉の政策提案

11月20日「第11回学生政策提案フォーラム in さいたま」が開催された。この政策提案フォーラムは、大学コンソーシアムさいたま加盟大学（さいたま市内及び



第11回学生政策提案フォーラム in さいたま

近隣に所在する13大学で構成）の学生が、各学生の専門分野等を生かし、さいたま市の政策について提案する事業である。今回の政策提案テーマは「誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と思えるさいたま市の実現」であり、本学や埼玉大学等6大学11グループが参加し、政策提案を行った。本学からは、幼児保育学科の造形デザインゼミと健康栄養学科の鈴木ゼミが参加した。

造形デザインゼミでは「さいたまにじろWEB」の提案を行った。SDGsの目標「5:ジェンダー平等を実現しよう」を掲げ、SDGsの「誰一人取り残さない」という誓いと、今回のフォーラムのテーマの「誰もが」に着目し、性的少数派の方々がよりよく過ごせるツールを提案した。政策提案骨子は、人権を尊重する社会づくりの推進・性自認に対する知識や対応の習得・平等・対等なサービスの提案等であり、政策の効果としては、LGBTQ当事者や、関係者たちの抱える困難を解消、多様な性を持つ人々が差別や偏見を受けずに暮らすことのできる社会の実現、性自認等によるいじめや差別の撲滅等を挙げた。

論説



本年11月、本学院は国連グローバル・コンパクト(GC)署名団体として、SDGsに係る2度目の定期活動報告書(COE)を提出した。SDGsは、国連が2015年9月に発表した「われわれの世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、「誰一人置き去りにしない」社会を目指すという共通の理念の実現に向け策定されたもの。本学院においても、この理念の下、国際社会のパートナーとして、本学院の持つ力を発揮しながらSDGsに取り組んでいると

今年、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)が主催する「サステナビリティ経営セミナー」に参画し、国際的なSDGsに係る潮流と日本を代表する企業等の今日的な取組に直接、触れる機会を得た。同時に、SDGsへの取組の課題や、教育機関として本学院が果たす役割は何かを

強く問うこともできた。現在、国際的に活動を行う多くの企業において、サステナビリティとともに、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に沿った情報開示(気候関連リスク)についての組織としてのガバナンス、戦略、リスクに係る評価・管理

となり多額の罰金を科せられることがある。企業がSDGsに取り組み背景の一つに、このような企業側の要因があるとしたら、SDGsの理念である、地域という私たちの身近な社会を変革し、「誰一人置き去りにしない」社会の実現を目指すには、誰がどのように進

めていくべきなのか、深く考えるを得ない。一つの例として、子ども食堂による社会活動は、貧困問題だけでなく、孤独になりがちな親子と地域を結びつけ、また、子どもの居場所づくりとしての役割を果たしている。短期大学では、

「今年レベルが高く、刺激になり、素晴らしい提案をありがとう」といいます。LGBTQは他人事ではなく、自分たちのテーマであると考えてくれており、若者らしい提案でした」

短期大学と中学校高等学校では、各校の専門性と特性を活かして、地域文化の向上と生涯学習の機会提供の観点から開校以来毎年、公開講座を開催している。今年度の短期大学の講座はコロナ禍にあり、対面開催を見送りオンラインに変更するなど9講座を開催する。中学校高等学校の講座においても、3講座を計画したが2講座を見送り、伊奈町学校開放講座の一講座を開催する。

「支援が必要で指導が難しい子どもかもしれないが、どの子どもも認められたい、楽しい時間をみんなと共に過ごしたい」と思っている。短期大学では12月3日、『発達支援が必要な子どもへの理解と対応』をテーマに卒業生を対象とした講座がオンラインで行われた。これは、卒業生追跡調査結果のニーズに応えるもので、今回講師をお願いした本学の櫻井康博学長特別補佐は、次のように話す。

「支援が必要で指導が難しい子どもかもしれないが、どの子どもも認められたい、楽しい時間をみんなと共に過ごしたい」と思っている。短期大学では12月3日、『発達支援が必要な子どもへの理解と対応』をテーマに卒業生を対象とした講座がオンラインで行われた。これは、卒業生追跡調査結果のニーズに応えるもので、今回講師をお願いした本学の櫻井康博学長特別補佐は、次のように話す。

公開講座 地域文化の向上と生涯学習の機会提供

地域文化の向上と生涯学習の機会提供

「今年レベルが高く、刺激になり、素晴らしい提案をありがとう」といいます。LGBTQは他人事ではなく、自分たちのテーマであると考えてくれており、若者らしい提案でした」

短期大学では12月3日、『発達支援が必要な子どもへの理解と対応』をテーマに卒業生を対象とした講座がオンラインで行われた。これは、卒業生追跡調査結果のニーズに応えるもので、今回講師をお願いした本学の櫻井康博学長特別補佐は、次のように話す。

「支援が必要で指導が難しい子どもかもしれないが、どの子どもも認められたい、楽しい時間をみんなと共に過ごしたい」と思っている。短期大学では12月3日、『発達支援が必要な子どもへの理解と対応』をテーマに卒業生を対象とした講座がオンラインで行われた。これは、卒業生追跡調査結果のニーズに応えるもので、今回講師をお願いした本学の櫻井康博学長特別補佐は、次のように話す。

「支援が必要で指導が難しい子どもかもしれないが、どの子どもも認められたい、楽しい時間をみんなと共に過ごしたい」と思っている。短期大学では12月3日、『発達支援が必要な子どもへの理解と対応』をテーマに卒業生を対象とした講座がオンラインで行われた。これは、卒業生追跡調査結果のニーズに応えるもので、今回講師をお願いした本学の櫻井康博学長特別補佐は、次のように話す。

教育の充実と学生支援に向け 学生と大学が意見交換会

短期大学では、教育研究に係る諸活動や学修成果の獲得状況、大学運営等に関する自己点検を行う過程において、大学の教育活動へ

学生の参画を促進するため、学生との意見交換会を実施している。今年度は学科別に行い、9月21日健康栄養学科4名、10月11日幼児保育学科3名の代表学生と、学長をはじめ5名の先生方で、

「①授業②キャリア支援③施設設備について」をテーマに率直な思いを語ってもらった。主な内容として①授業については、ディスカッション(発表含む)を取り入れた授業が多く、他の意見を聞くことでディスカッション

「①授業②キャリア支援③施設設備について」をテーマに率直な思いを語ってもらった。主な内容として①授業については、ディスカッション(発表含む)を取り入れた授業が多く、他の意見を聞くことでディスカッション



意見交換を行う代表学生

財務情報 決算総額約32億円

令和3年度の決算概況をお知らせします。資金収支計算書では決算総額は前年度と比較して、97百万円減額の約32億円となりました。収入の部では、学生生徒等納付金収入は8億62百万円でした。支出の部では、伊奈キャンパスLED化工事等の施設整備、ICTインフラの整備を行うほか新型コロナウイルス感染症防止対策にも取り組まれました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は55百万円の黒字、教育活動

外収支は12百万円の赤字となり、経常収支差額は43百万円の黒字となりました。貸借対照表では「資産の部合計」は120億13百万円で、前年度末と比較して65百万円減少しました。「基本金」は1号基本金が2億48百万円、2号基本金が20百万円増加しました。以上の結果、「純資産」は96億30百万円となり、前年度末と比較して56百万円増加しました。詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

国際学院埼玉短期大学 常任理事・事務局長 小山有一朗

令和4年度 第24期生国内研修

地域の伝統、文化に触れ成長促す

北海道、関西、九州、沖縄の4方面で実施



長崎平和祈念像の前にて

今年度の研修は、コロナの感染状況や社会情勢を鑑みながら、実施の可否や方面等複合的に検討を重ね、

9月24日から29日の中の2泊3日で北海道、関西、九州、沖縄の4方面で催行しました。4方面での研修は前例がありません。

食の豊かさに触れる経験ができました。関西では、阪神淡路大震災を風化させず、その体験と教訓を学び、災害に遭遇したときに生き抜くための知恵を学習しました。

戦の誓いと、平和に対する認識を新たにしました。また、美しい自然、海の豊かな生態系に触れたり、エイサーや二線の体験、首里城見学等を通じ琉球文化への理解も深まりました。

国内研修・北海道方面

主体的行動の大切さ認識

高校2年K組 大野 愛実

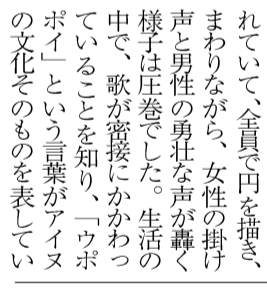


私たちが第2学年は、9月24日から29日の期間に2泊3日で国内研修に行きました。

国内研修・沖縄方面

文化と戦争の悲惨さ学ぶ

高校2年G組 中村 綾花



私は今回、国内研修で沖縄に行きました。沖縄まで行くには東京の羽田空港から飛行機で2時間余りかかります。

悔しさバネに関東大会で優勝

高校3年C組 加藤那々実



私は、7月28日から31日に広島県で開催された第60回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会に出場してきました。

今年の全国大会で行われた女子チームライフル団体戦は残念ながら6位という結果で連覇を逃してしまいました。

クラブ活動報告

大会で成績を残していくことの難しさを学ぶことができた。自分自身もさらに成長することができ、良い経験となりました。

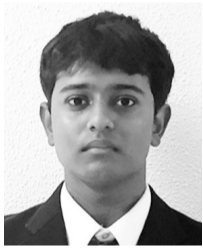


国体出場の選手たち

また、私は10月に栃木県で開催された第77回国民体育大会に出場してきました。

全関東大会で3位入賞

中学3年1組 ジャヒン ハスナット



私は今回、8月26日から28日まで埼玉県長瀬町で開催された第59回全関東ライフル射撃競技選手権大会に出場しました。

射撃部

夢に向かって努力し続けていきたいと考えています。この国際学院高校で学んだことを生かし、自分の将来の

シヨナルタレント指定選手合宿に8月27日まで参加させてもらいました。この合宿は、日本ライフル射撃協会のナシヨナルタレントに指定されるための基準点をクリアし、ナシヨナルタレントに指定されている選手が全国から集まり行われました。

加しました。本校は、ユネスコスクールと国連グローバルコンパクトに加盟しています。

2日目は、ファーム富田や青い池、旭山動物園を見学しました。北海道の雄大な自然を見ると心が止まってしまうほど美しい景色でした。

ジンギスカンの夕食です。友達と本場北海道の食を思う存分に味わうことが出来たととても幸せな時間でした。

今回の研修を通して、学んだことは多くありました。私は研修委員長として、主体性を持ち行動することが大切さを認識することができました。

人のコーチからアドバイスなどをもらったり、同じ種目の仲間どうして話合ったりしました。その中で、今まで部活動でコーチや先生に言われてきたことと同じことを言われ、その時、やはりどのような人でも基本を大事にしているということに気づき、基本を大事にすることで強くなれると思えました。

射撃は、ライフルとピストル種目があり、その中でエアピストルという種類に分かれています。私はエアピストルをやっているのですが、世界大会などに出るにはエアピストルでないといけません。

私が沖繩で特に印象に残った場所は主に3カ所あります。1カ所目は平和祈念公園です。平和祈念公園では、沖繩戦争についてたくさん学ぶことができました。

最後に、今回私たちは沖繩に行き、観光などを安全に楽しむことができました。そしてなにより沖繩の文化や沖繩戦の悲惨さについて学ぶことができました。

合宿では、オリンピック選手などが練習しているナショナルトレーニングセンターで練習することができました。

試合では、先生やコーチ、仲間と先輩の応援があっけなく、指導してくれる人々や応援してくれる人たちの期待に応えられるようにこれからも頑張ります。

次に2カ所目はアメリカカンピレージです。ここでは、班別の自由行動をします。アメリカカンピレージはその名前の通り、建物や景観がアメリカのようになっています。

最後に、今回私たちは沖繩に行き、観光などを安全に楽しむことができました。そしてなにより沖繩の文化や沖繩戦の悲惨さについて学ぶことができました。

JICA訪問

自覚を持った探求行動

異文化へ関心、自身見つめる機会に

6月11日、中学1年生と2年生が「JICA地球ひろば」へ訪問しました。この行事は、学習を通して異文化に対する関心を高めることを目的としています。生徒たちが立てたスローガ



体験ゾーンでの生徒たち

陸上競技部

U18日本選手権で優勝

高校2年A組 田口 侑崇



私は10月21日、愛媛県で行われたジュニアオリンピックカップU18日本選手権に三段跳で出場しました。8月のインターハイでは入賞を果たすことができず悔しい結果に終わりましたが、その後の練習では、このU18での優勝を目標に準備を進めてきました。9月に行われた埼玉県新人大会は、自己ベストを更新し優

勝を果たすことができたので、今大会は自信を持って挑むことができました。1本目の跳躍は、12m14で3位につけることができた。この時点で1位との差は11cmでした。2本目の跳躍は、3回目終了時点で3位のまま、トップ8に入りました。顧問の児玉先生から、「流れは良い。形はできていてから思い切りいけば逆転できる」とアドバイスをもらい、自分の中でも最高の跳躍をするという強い気持ちを持っていました。迎えた最終跳躍は、全ての力を出しきり、自己

ベストを大幅に更新する12m50を跳び逆転で優勝を果たすことができました。目標としていた優勝、日本一をとるために本校を選んだ私にとってこの喜びは忘れることができません。このような結果を残すことができたことは、顧問の先生やトレーナー、家族や仲間への支えがあったおかげだと考えています。感謝の気持ちを忘れず、来年のインターハイ優勝に向けて、恩返しができるよう努力していきます。

関東選抜大会で準優勝

高校1年K組 三島 菜楠



私は9月22日、熊谷で行われた埼玉県新人陸上競技大会に出場し、100m、200mで優勝を果たすことができました。3位に入賞した4×100mリレー、準優勝を果たした4×400mリレーを含め、関東選抜大会の出場権を獲得することができました。また、チームとしても学



関東選抜決勝レース（右から3人目）

校対抗で総合優勝を果たすことができました。仲間と喜びを分かち合うことができました。そして、10月22日、23日、神奈川県相模原市で行われた関東選抜大会に出場しました。初日に行われた100mでは、予選を1着で通

り、とても感謝をしています。これからも感謝の気持ちを忘れず、来年のインターハイでの優勝を目標に努力していきます。



残りしました。仕草によって性格の異なる登場人物たちをイメージさせ、オチでは聞いていた人たちが笑わせる内容で私も夢中になっていました。

役割が異なっていました。林家けいさくさんは落語の中でも短い一言落語を行い、笑福亭喬若さんは上方落語を、三増紋之助さんは桂文治さんのお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。

当日の落語家の方たちは役割が異なっていました。林家けいさくさんは落語の中でも短い一言落語を行い、笑福亭喬若さんは上方落語を、三増紋之助さんは桂文治さんのお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。

バレエ「真夏の夜の夢」を鑑賞

中学1年1組 山下 夏空



7月11日、日生劇場にて芸術鑑賞会が開催されました。そこでは、世界的にも著名なバレエ「真夏の夜の夢」を鑑賞することができました。私はバイオリンを習っていることもあり、今回の芸術鑑賞会を大変楽しみにしていました。

まず「真夏の夜の夢」という作品について説明します。舞台は19世紀の南フランス。ルネサンス風邸宅の中庭では、公爵とヒポリタの結婚式の準備が行われていました。そこへ公爵の前に現れた老人イジラスが、娘のハミミアと共に現れました。イジラスはデイトリウスと結婚させたいが、ハミミアはライサンダーと愛し合っています。しかし、父の言いつけに背く娘は、法律により公爵から死刑を告げられます。それを思い余ったハミミアは、愛する

1つ目は、音楽とバレエ1人の踊りが完全にマッチしていることです。例えば、妖精たちが遊ぶシーンは、とても愉快な曲が流れてきます。踊りが曲のテンポと見事に合っていて、私も中で踊りたいと思うほどでした。

2つ目は、声を出さないのに物語がしっかりとわかることです。バレエでは声は出しません。バレエの物語はバレエパントマイムという手話のようなもので会話をします。私たちは事前学習で「マイム」について調べていたので、話の流れがよくわかりました。

3つ目は、演者の顔や照明、音楽などが1つになって物語を進めているところ。悲しいシーンになると静かな音楽が流れ照明が暗くなり、嬉しいところがあると愉快な音楽が流れ照明が明るくなります。このように様々なものが1つになって1つの作品をつくっています。

芸術鑑賞会 落語に感動、曲芸の手伝いも

高校1年G組 岡本 由優

7月11日に落語をテーマとした芸術鑑賞会が行われました。当日は4名の落語家である林家けいさくさんと笑福亭喬若さん、三増紋之助さん、桂文治さんにお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。

当日の落語家の方たちは役割が異なっていました。林家けいさくさんは落語の中でも短い一言落語を行い、笑福亭喬若さんは上方落語を、三増紋之助さんは桂文治さんのお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。

当日の落語家の方たちは役割が異なっていました。林家けいさくさんは落語の中でも短い一言落語を行い、笑福亭喬若さんは上方落語を、三増紋之助さんは桂文治さんのお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。

当日の落語家の方たちは役割が異なっていました。林家けいさくさんは落語の中でも短い一言落語を行い、笑福亭喬若さんは上方落語を、三増紋之助さんは桂文治さんのお越した頂きました。私は落語鑑賞の経験がなく、芸術鑑賞会を見る前の印象は、初めて見る人も楽しめる内容だろうと想像していました。その理由は、テレビで見ている笑点の落語家の方たちのイメージが強く、いつも彼らを面白いと感じていたからです。



カヤックに乗り自然体験

訪問地と、班別の自由行動に多く時間を取った行程となりました。研修当日は東京駅の団体集合場所へ出発式を行い、新幹線で昼食を取りながら京都駅まで移動した後、バスで滋賀県琵琶湖に隣接するBSUウォータースポーツセンターに向かい、カヤックに乗り自然体験を行いました。面積650kmを超える壮大な湖を目の前にし、体験が不安になる生徒もいましたが、インストラクターの方の親切なご指導により全員目的地に辿り着けるほど上達しました。体験後はホテルに移動し、夕食後実行委員会企画によるレクリエーションを行い、就寝となりました。

2日目はUSJでの班自由行動を1日行いました。通信制課程では様々な事情から生活リズムや運動能力が異なる生徒が在籍していますが、最高気温34・8度快晴のなか、皆協調性を保ち、各々特別な思い出を作ることができました。

3日目は京都清水寺の見学と三年坂での班自由行動となりました。この日も最高気温は34度の快晴でしたが、伝統的な風情ある景観のなか、歴史的建造物の概要とその保護活動について興味関心を持ちながら見学することができました。

後日事後学習を行い、班ごとに発表を行いました。各々訪問地での感動を表現するなど、短い準備期間にもかかわらず完成度の高い発表となりました。いずれも印象に残る訪問地だったこともあってか、今回の研修では総じて生徒たちの誠実さや社会性を発揮できる機会となり、予想を超えた成長を遂げられた生徒も多かったため、共感性の高い集団が行う協力的な学習の成果を実感することができました。

テーマは「勇往邁進～Try! 失敗を恐れず全力を注ぎ～」

短大体育大会

コロナ禍でのよき思い出に 仲間の大切さ、リーダーの大変さ実感

体育大会委員長

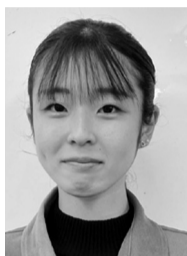
健康栄養学科2年A組 熊木菜々帆
幼児保育学科2年B組 風間 友綺



短大体育大会の綱引き

体育大会委員長を務めて感じたことは、全体をまとめることの大変さと、体育大会が成功した時の達成感です。私はこれまで人前で発言する機会がないため、緊張することが多く、同時に皆が協力してくれるかという不安もありました。

体育大会当日が近づくと委員会が集まる回数が増え、準備を着々と進めることができました。その中で



(熊木菜々帆)

今年度の体育大会は5月20日(金)にサイデン化学アリーナで開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でクラスごとのボッチャ大会であったため、今年は1・2年生の両学年が初めて経験する体育大会でした。

コロナ禍でも学生生活の良き思い出となる体育大会でした。ご指導・ご協力頂きました先生方に心より感謝申し上げます。(風間友綺)

短大国内研修

横浜で日本や海外の 様々な文化や歴史を学ぶ

健康栄養学科食物栄養専攻
2年A組 岡部鴻一郎



6月29日、現地研修先として沢山の文化施設が集まる横浜の地を訪ねた。各回の授業では学長先生の講義をはじめ、JICAやユネ

スコ協会の講師の方から、発展途上国の貧困問題や子供たちの生活、食等についての話を聞き、SDGsと関連付けて学ぶことができた。また、現地研修については事前準備や事後のまとめ、発表にも力を入れた。話し合いを重ね、充実した深い学びができたことと実感している。

1人1人が意欲的に授業に参加していた姿勢が印象深い。特に横浜ではグループごとにそれぞれの計画に従って有意義な時間を過ごすことができた。当日は気温が高く、炎天下での活動に若干の心配もあったが、各自健康管理に留意しながら複数の施設を訪ね、日本や海外の様々な文化や歴史

中高体育大会

高校 団体競技実施で盛り上がり 中学 生徒考案のダンス演技に拍手

6月1日、2日にかけて、国際学院中学校高等学校体育祭が実施された。今年度は両日ともに晴天に恵まれ、絶好の体育祭日和となった。

高等学校は、各学年を3色に分け、縦割りの3色対抗戦を行った。昨年度は6色対抗で実施されたが、今年度は3色というところで、同じ色のクラスや学年を応援する姿が数多く見られた。特に綱引きは全学年の色別対抗で行われるので、各クラスで製作したクラス旗を掲げ、3年生を中心に大いに盛り上がった。



選手宣誓 (上尾運動公園陸上競技場)

また、最大の目玉であるダンスの演技発表では、生徒自らが考案した振り付けはクラス対抗戦ともあつてか、各クラス団結し、より上位の順位を目指して切磋琢磨することができた。中学校は、例年通り紅白に分かれて学年を縦割りにし、2色対抗戦を行った。各色団結を中心に、全ての競技において一生懸命応援する姿が見られた。その応援に応えようと、それぞれが最後まで諦めず、ひたむきに競技に臨むことができた。

中高五峯祭

ポストコロナの 新たなステージへ

9月10日、11日に第25回五峯祭が挙行されました。コロナ禍により、今年度も紆余曲折ありましたが、オンライン・来場の同時開催、さらには来場は関係者のみという形で着地しました。

報道によれば、今年度、文化祭をどのような形で実施するかは多くの学校にとつて悩みの種であったようです。注目したいのは、文化祭の在り方について学校ごとに差異が生じていたこととです。たとえばセレモニ(夜後祭等)、ウェブ上での広報(特設サイトの設置等)、文化的活動(文化



部(発表等)、全校生徒の参加(クラス毎の企画等)、これらの事柄のうち最重要すべきは何か。その回答は学校ごとに異なりました。

本校はどうかでしょうか。感じ方や考え方は人によるでしょうが、本校が重視したのはバランスと先見性です。バランスが崩れたイベントは多くの不満を生み出す。過去の五峯祭の在り方を再検討し、偏りの修正と事業のスリム化を意識しました。

もう一つは先見性です。慣例にとらわれず、今後主流となる事柄に挺入れしました。たとえば特設サイト

短大五峯祭

来場者の笑顔励ましに 幼児保育学科2年A組 照屋 紗良



今年度の短期大学の五峯祭は、11月6日に「Please visit the link」可能性は無限大」をテーマに開催さ

れました。3年ぶりに学外の方を招いて開催出来た事を心から嬉しく思います。昨年度は参加団体毎に、学生を午前と午後に分けての新型コロナウイルス感染症対策に厳重に配慮した学内のみでの開催だったため、今年度は各団体がより一層一丸となって協力し五峯祭

を作り上げることが出来たのではないかと感じています。また、幼児保育学科の学生によるイベントプロデュースサークルM.A.H.をはじめとしたサークル活動によって学科を超えた関わりが見られたことも、国際学院埼玉短期大学の五峯祭ならではの特徴であり、嬉しく感じました。

初めての事ばかりで五峯祭委員として対応しきれない部分も多くありました。

感謝の気持ちで食事を楽しむ 健康栄養学科食物栄養専攻 1年A組 小林 詩櫻



パレスホテル大宮にて「西洋料理テーブルマナー」が実施されました。コロナ禍のため、マナー会場は、アクリル版の設置、間隔を空けて席を設けてくださっていました。私たちも、私

語を慎みながら食事をするなど感染対策を万全の状態に臨むことができました。講師の先生から丁寧な説明があり、テーブルマナーについてはもちろん、場にあふましい身なりや態度など、教養豊かな社会人になるために必要なことを身につけることができました。

テーブルの上にセットしてあるフォークやナイフは外側から使用することやナプキンの使用方法など多くのことを初めて知り、これら

のことは食事として提供されるまでに関わってくださった方々への感謝の意を表しているのだと感じました。

また、講師の先生のマナーの根本は「心」という言葉は心に強く残り、改めて思いやりをもつことが食事を楽しむことに繋がると思いました。

将来、保育者や栄養士、調理師を目指す私たちに、他には代え難い貴重な経験となり、このことを活かしてマナーについて理解を深めていくとともに、常に感謝の気持ちを持ち、相手を敬うことができる素豊かな社会人になれるよう努めたいと思います。

災害救助用備蓄食料の有効活用と防災啓発

本学防災強化月間

アルファ米を美味しく食べる

食品ロス削減へ意識向上

短期大学では、埼玉県農林部農産物安売課から賞味期限が近づいている災害救助用備蓄食料の譲渡を受け、「アルファ米を美味しく食べる」をコンセプトに本学独自の防災強化月間（5月・6月）に1回70食のアルファ米おにぎりを8回にわたり合計560食を学生に無償提供し、防災食を身近に体験して防災意識の向上とともに食品ロス削減の意識向上を図った。



アルファ米のお弁当を手に

健康栄養学科の田中祐作助教が、アルファ米の乾燥処理をさせて作った加工米のことで、炊かなくてもお湯や水を注ぐだけでご飯になるので災害食として利



健康栄養学科の田中祐作助教が、アルファ米の乾燥処理をさせて作った加工米のことで、炊かなくてもお湯や水を注ぐだけでご飯になるので災害食として利

身近な素材が無限の遊びへ

学生49名に「認定証」授与

おもちゃインストラクター資格講座開催

第10回「おもちゃインストラクター養成講座」が9月12日に開催され、国際学院埼玉短期大学の会場へ幼児保育学科の学生49名が集った。

この講座の主催は、認定NPO法人「芸術と遊び創造協会」で、東京都新宿区にある東京おもちゃ美術館と提携して開催している。玩具を中心として展開され

る子どもの遊びと数々の学びによって、幼児保育学科の学生たちが保育者を目指す意識や自覚を高め、質の高い保育者養成に寄与することが期待されている。講座は子ども理解や遊びのきっかけと工夫、試行錯誤といたった力を養うため、4つのワークショップと4つのレクチャーで構成される全6時間の体験型カリキュラ

ムとなっている。当日は、同協会から2名の講師が来場し、日常生活の中にある身近な素材を用いた簡単に製作できるおもちゃ作りの実践・指導が行われた。

例えば、画用紙・ハサミ・のり、という基本素材と道具を用いてできる「手品カード」や「六角返し」、「数字パズル」、「奇妙な生き物不思議ボール」といったおもちゃの製作を行った。同時に、カッターの持ち方や切り方について具体的な指導を受け、切りやすいう方法や効率のよい道具の使い方も学んだ。学生たち

は「手には2万個のセンサーがついている」といった講師の言葉に驚き、手指を自ら動かして素材に触れたりモノを作ったりすることの重要性を再確認していた。また、新聞紙一枚でどのような遊びができるか受講者全員で考え、「新聞紙でことん遊ぶ」という実践も行われた。ここでは、折る、ちぎる、破る、丸める、などの動作から「新聞紙かくれんぼ」や「新聞紙ボール」、「新聞紙すもう」、「新聞紙輪投げ」、「新聞紙やんけん」など多様な遊びが提案された。

着することで、「フリスビー」や「皿回し」に変化した。受講生たちは「うまくできない」「どうしたら成功するのか」と各自苦戦しながら皿回しに挑戦し、新しい方法を見つけたり教えたったりするなど工夫する力を発揮していた。

さらに、「世界のおもちゃで遊ぶ・学ぶ」では、世界グッドトイに選ばれている木製おもちゃの紹介や優れている内容、遊び方について一つずつ丁寧に教えて頂き、「忍者12人」、「ステッキ」、「かえるさんジャンプ」、「けん玉人形」、「ざわってあてっこゲーム」、

「自分で自信が付き、さらには保育者になりたいという気持ちが強くなりまして。必ず、成し遂げたいと思えるようになりました。また、学校全体が安全に快適に過ごせるように、学友会として、ポスターを作成したり、学内放送を行ったりしました。消毒の徹底や昼食の取り方等、コロナウイルス感染症拡大防止の対策に人一倍取り組みました。

そして昨年度、クラス内でしか行えなかった、体育大会では大成功を収めました。中でも「学友会企画猛獣狩り」をし、各学科の学生全員が参加できるレクリエーションゲームを行い、学年の輪を越えて、学生一人ひとりが主体となって行うことが出来たと感じています。



短期大学学友会活動報告
学友会会長
幼児保育学科2年B組
川村 花苑

私たちは短期大学生活は、コロナウイルスが流行する中、始まりました。楽しみにしていた行事がコロナウイルス感染症拡大防止のため、中止になったり、制限されたり、私たちの思うようには行けない日々が続き、活気が少し減っていきような気がしました。

そんな中でも、私自身は何を身につけたら良いのかを考えた一つひとつ挑戦して取り組みました。さらに、明るい挨拶、時間を守ることを意識しました。一つひとつ挑戦していくこと

で、自分に自信が付き、さらには保育者になりたいという気持ちが強くなりまして。必ず、成し遂げたいと思えるようになりました。また、学校全体が安全に快適に過ごせるように、学友会として、ポスターを作成したり、学内放送を行ったりしました。消毒の徹底や昼食の取り方等、コロナウイルス感染症拡大防止の対策に人一倍取り組みました。

そして昨年度、クラス内でしか行えなかった、体育大会では大成功を収めました。中でも「学友会企画猛獣狩り」をし、各学科の学生全員が参加できるレクリエーションゲームを行い、学年の輪を越えて、学生一人ひとりが主体となって行うことが出来たと感じています。

さらに、「世界のおもちゃで遊ぶ・学ぶ」では、世界グッドトイに選ばれている木製おもちゃの紹介や優れている内容、遊び方について一つずつ丁寧に教えて頂き、「忍者12人」、「ステッキ」、「かえるさんジャンプ」、「けん玉人形」、「ざわってあてっこゲーム」、

諦めずに「一つひとつ」挑戦！

高等学校・中学校生徒会活動報告
高校3年A組
田野 天景

私達前期生徒会本部役員は、3年ぶりとなる来場型の両方で行われました。今年度のテーマは「Best of Best」さらなる高みへ」でした。

新型コロナウイルスの影響により、3年間開催出来なかった来場型での五峯祭の復活は、3年という月日により、来場型の五峯祭を経験したことがある生徒がほとんどおらず、大半の高校生は文化祭が画面の中

の交流や学年・学科全体で楽しく交流出来るようにしたいという思いを込めて開催しました。クラスごとに協力し、団結して行っていたと思います。

その他、入学式の際に行った学校生活紹介、高校教員対象の入学者選抜説明会、五峯祭ホスター・プロگرام原審査会、さいたま市長とのタウンミーティングへの参加、オープンキャンパスでの司会など学生

代表として、たくさん貴重な機会を頂きました。行っていくことで、自分自身のキャリアスキルを向上させることが出来ました。

今年度の五峯祭は、新型コロナウイルスの影響によってオンラインにせざるを得なかった昨年までとは違い、復活することのできた来場型、より多くを魅せることの出来るオンラインと、この出来るオンラインというカタチのネクスツステージへ、五峯祭をさらなる高みへ発展させることができたといえるでしょう。

新しい五峯祭では生徒が積極的に企画を立案し、祭典を盛り上げました。その中で私達生徒会ではドミノの両方を始め、ストラックアウト、先生借りゲーム、雑学クイズ、フォトスポツト等を企画しました。有志の生徒の皆さんや先生方には大きな力添えをしていただきました。ドミノ倒しでは昨年度から5千個ドミノの数を増やし、計5万個ものドミノを並べました。

今回はアクシデントが多々、企画担当者兼生徒会長である私自らもドミノを本

番前に倒してしまい、ドミノ倒しは少し残念な結果となりました。他の企画でも少なからず失敗があったかもしれませんが、しかしそれ以上に、成功と笑顔を魅せることができました。どの企画も熱気に溢れ、校舎には活力と生徒や先生方の笑い声がこだましていました。今年度の五峯祭は成功したと言いつてもいいかもしれません。

しかしそれ以上に、成功と笑顔を魅せることができました。どの企画も熱気に溢れ、校舎には活力と生徒や先生方の笑い声がこだましていました。今年度の五峯祭は成功したと言いつてもいいかもしれません。

他は生徒会活動ですが、自動販売機のラインナップを変更するためにアンケートを実施しました。校内に設置されている自販機の中身を調べ、カタログを受け取って自販機に並べて欲しい飲み物を調査するためアンケートを制作しました。校内の自販機をより快適に利用できる足掛かりになればと思っています。

以上が前期生徒会活動になります。至らない点もありましたが、約半年間の皆様の多岐にわたるご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

通信制課程校外学習

体験を通じた防災教育へ

本所の防災館で都市型水害体験コースを受講



害体験コースを受講しました。体験項目は、災害の概要とその意識を学ぶシミュレーション、大規模な地震、煙が充満した建物の避難、消火器を用いた消火、都市型水害を想定した車内の5項目です。別日に事前学習を行い、当日それぞれ適切な対応のレクチャーを受けた上で体験しましたが、どれも想像以上の規模であり、災害時の対応を円滑に行うためにはそれを想定した備えが必要であることがよく学べました。

本校では令和3年度より週4制を開講したことから、交通安全教育や薬物乱用防止教室等の特別活動を授業に取り入れる機会が増

えました。その取り組みの一環として、5月13日にスカイツリー周辺を班で自由に散策をしたあと、墨田区にある本所防災館で都市型水

卒業生近況報告

短大 令和3年度卒業

感謝の言葉がやりに

特別養護老人ホームひまわり

山崎 琴子



業務内容
現在、直営での介護施設で勤務しています。介護施設の規模は、入所が約80名、職員が45名、厨房では常勤パートも含め10名です。
介護施設での私の業務内容は、調理業務、事務作業、

事がある日は、普段の食事より、手の込んだ食事が多い。調理の工程が難しいこと、食数が多い、形別に分ける量が多いこと、禁食嫌い、アレルギーの方の別の料理の準備をする事が多いこと、覚えるのに必死でした。
コロナ対応で大変だったこと
初期頃は、コロナ感染者が出なかったため、対応はなかったのですが、職員が家庭内の感染が広がり始めた時は、陽性者が出た廊下の隔離や配膳車を隔離された部屋ごとに分けたり、食



間でした。
後輩たちに向けて
失敗してこそ、いろんな経験が出来ると思います。

入社1年目から企画提案

株式会社SLD

神田 那夏

私は、平成29年から食物調理コースに在籍していました。在学中は普通の授業と共に、バスケットボール

や友達には、他愛もない話から困った時には相談するような信頼した存在があり、国際学院での出会いはなくてはならないものでした。後輩の皆様もこれからの日々を過ごす中でたくさんの人と出会うことがありますが、出会いを大切にしてください。
特に自分が好きなことや興味があることに関わる人と出会うと、尊敬する存在やこうなりたいと思える人

に出会い、自分がなりたい姿がより明確になると思います。国際学院の先生方は幅広い分野の知識を持っているため、興味の分野の知識を持った先生方に相談し将来にも活かしていきたいです。
進路や就職活動をするとき、自分自身が好きなことや楽しいと感じることを、将来生かしたいと考えました。私は高校時代はバスケットボール部だったこともあり、スポーツが好きだったので、調理コースで学んだことと調理コースで学んだ知識をさらに深めたいと考え、どちらにも学べる埼玉県の武蔵丘短期大学の健康生活学科、健康栄養専攻へ進学しました。健康栄養専攻では、健康を栄養面から

考え、各種スポーツについても学び、栄養とスポーツの両面から、健康指導が出来る栄養士になるための学びができるスポーツ栄養コースで学んでいました。他にも食育コース、フードマネジメントコースなど幅広い分野で学ぶことができました。入社1年目ですが、このような経験ができて、私自身も多事多端ではありますが、楽しんでいながら日々会社で力を注いでいます。Dグループの店舗の、飲食×音楽や飲食×コンテンツなどを通して人を楽しませるという考え方に共感し、自分が楽しいと感じることで人を楽しめたいと考え就職を決めました。
現在、私が働いている店舗では、DJスペースがあ

り、食事をしながらDJを楽しむイベントを開催するなど、常にお客様を楽しませる企画提案を行っています。また、商品開発にも携わらせて頂いており、私が考えたメニューが冬のスポーツメニューとして採用されました。入社1年目ですが、このような経験ができて、私自身も多事多端ではありますが、楽しんでいながら日々会社で力を注いでいます。Dグループの店舗の、飲食と様々なコンテンツを楽しみに一度、足を運んでみて頂ければ幸いです。

ベストブック

シエル・シルヴァスタイン 作・絵/本田錦一郎 訳
「おきな木 (THE GIVING TREE)」
篠崎書林



います。本書の中には沢山のメッセージが隠れていると思いますが、私は二つのことを考えてみたいと思います。
一つ目は、無償の愛

じたりします。しかし、少年は幼少期にりんごの木とたつぷりと遊び、一緒に十分な時間を過ごし、この時間が大切

ばい、せすじを のぼし
「生きていると(私にはそう読めました) 応えています。他者から必要とされること、そして、

国際学院は建学の精神及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有意な人材を輩出しております。中学校高等学校のユネスコスクール加盟をはじめ、国連グローバル・コンパクトに署名し、GCNJの会員として、GCC及びSDGsの推進に取り組む等、国際社会の中で尊敬され、活躍できる人材の養成に邁進しております。

こうした中、より充実した教育研究や社会貢献活動を実施するためには、施設設備や各種奨学金制度の充実及び教育研究環境の整備等を一層進めていく必要があります。
こうしたことから、多くの皆様のご理解・ご支援を

税制上の優遇措置を所定の手続きをとることにより受け取ることができます。詳細は短期大学ホームページ (https://seikei.ac.jp/) に「寄付のお願い」として掲載しておりますのでご参照ください。
お問い合わせは、各校の寄付金担当まで。
【令和4年度教育研究施設整備、教育研究環境向上等推進事例】
①施設照明のLED化等
(継続)
②ラーニングコモンズ整備
また、短期大学においてもWiFiやタブレット端末機等の増設によるICT環境の整備や、ホームルームの机・椅子のリニューアル等を実施しています。
さらに、中学校高等学校、短期大学共に新型コロナウイルス感染症防止対策等学生生徒の安全確保に活用させていただいております。
なお、寄付金については、

信頼、感謝、そして“あなたが必要”というメッセージを発信すること



私が本書と出会ったのは、村上春樹氏が翻訳をするという話題になったことがきっかけです。書店に行くと、村上春樹ではなく本田錦一郎訳の本が並んでおり、村上春樹氏の訳本出版まであと3か月というポップが掲示されていました。村上氏ではなかったものの話題の本だからと購入しました。初めて本を開いたとき、読み進めていくにつれて緊張していき、最後の二行でホッとしたのを覚えています。
「存じの方も多しと思

国際学院埼玉短期大学 教授 桐原 由美
幼児保育学科

自分を犠牲に他者への無償の愛

りんごの木と少年の交流を描く



りんごを売ったらどうだろう」と提案し、少年はりんごを全て取っていき、それから月日が流れ少年は大人になりました。大人になった少年はりんごの木に「家がほしい」「船がほしい」と言い、りんごの木はそ

でしたが、年老いた少年が欲しかったものは...
本書の表紙は、緑色の中にりんごの子どもの服の鮮やかな赤色が印象的ですが、話は白黒の線画の挿絵とひらがなで書かれています。なので、読む人のその時の心が物語として現れやすくなって

二つ目は、人の役に立つことは生きるエネルギーになる。いうことで、何も無くなり切りかぶだけになってしまった少年の我儘さや、大人になり年老いても自立できない少年が哀れに感じた

「生きていると(私にはそう読めました) 応えています。他者から必要とされること、そして、他者のために役立つ自分を見出すことが大切なのではないかと感じます。人は関係性の中で生活しています。本書を通して、無償の愛はなかなか行えないけれど、信頼関係を築き、感謝の気持ちが持てるよう、また、あなたが必要」というメッセージが立ち振る舞いの中で発信できるようにしたいと思

なお、「おきな木 (THE GIVING TREE)」はこれまで、藤田圭雄氏、本田錦一郎氏、村上春樹氏の3名によって日本語版に訳されましたが、藤田氏、本田氏の訳本は絶版になり、現在は村上氏の訳本が入手可能な書籍として出版されています。

国際学院は建学の精神及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有意な人材を輩出しております。中学校高等学校のユネスコスクール加盟をはじめ、国連グローバル・コンパクトに署名し、GCNJの会員として、GCC及びSDGsの推進に取り組む等、国際社会の中で尊敬され、活躍できる人材の養成に邁進しております。

こうした中、より充実した教育研究や社会貢献活動を実施するためには、施設設備や各種奨学金制度の充実及び教育研究環境の整備等を一層進めていく必要があります。
こうしたことから、多くの皆様のご理解・ご支援を

税制上の優遇措置を所定の手続きをとることにより受け取ることができます。詳細は短期大学ホームページ (https://seikei.ac.jp/) に「寄付のお願い」として掲載しておりますのでご参照ください。
お問い合わせは、各校の寄付金担当まで。
【令和4年度教育研究施設整備、教育研究環境向上等推進事例】
①施設照明のLED化等
(継続)
②ラーニングコモンズ整備
また、短期大学においてもWiFiやタブレット端末機等の増設によるICT環境の整備や、ホームルームの机・椅子のリニューアル等を実施しています。
さらに、中学校高等学校、短期大学共に新型コロナウイルス感染症防止対策等学生生徒の安全確保に活用させていただいております。
なお、寄付金については、